

経営理念	生徒会スローガン 誇れる野市中をみんなの力で！ Level Up More 学校教育目標 しなやかな心を持ち、志高く自ら学び行動することができる生徒の育成 学校経営理念 「地域とともにある学校」「全ての子どもたちが安心して豊かに生活し、学びのある学校」の実現に向け、チーム学校として一人一人の教員が質の高い教育を追究しようとする主体的に参画している学校を目指す。 研究主題 未来を切り拓く力を身に付け、アップデートする生徒の育成 目指す生徒像 「仲間と協力する」「自ら行動する」「課題を探究する」「地域に誇りを持つ」
------	--

中期経営目標		短期経営目標(評価項目)	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
豊かな 仲間や他者とつながり、自分自身の将来を 考えることができる 生徒を育成する	①保健指導の充実による基本的な生活習慣の確立 ・学校評価アンケート「早寝、早起き、朝ごはん等の基本的な生活習慣が身につけている」肯定群85%以上	質問項目「早寝、早起き、朝ごはん等の基本的な生活習慣が身につけている」の肯定群は、生徒82.5%【82.0】、保護者69.8%【69.3】で昨年度より若干上がっているが目標には達していない。保健通信や掲示物を通してより良い生活リズムの確立に向けて発信を行ってきた。今後は再度、保健委員会を通して生徒が主体となる取組や保護者への情報発信を行っていく必要がある。	B	昨年度より肯定的評価の割合が微増しているため、養護教諭を中心とした取組は一定評価できる。朝練で早朝に登校するため、朝食を食べない生徒がいるかもしれない。生徒の肯定群と保護者の肯定群の割合にずれがある中で、そこを埋めていくような手立てが必要である。	B	養護教諭を中心とした生徒や保護者に対しての啓蒙の取組は今後も継続していく必要がある。それとともに、保健委員会の生徒から全体に早寝、早起き、朝ごはんの重要性について呼びかけるなどの、生徒会活動を中心とした取組を充実させていくことが求められる。	
	②発達支持的生徒指導の実施による、自尊感情、規範意識の醸成 ・学校評価アンケート「自分には良いところがあると思う」「学校の規則を守ることができる」肯定群80%以上	質問項目「自分には良いところがあると思う」の肯定群は、生徒84.8%【新】、「学校の規則を守ることができる」の肯定群は、生徒96.5%【93.9%】、保護者89.2%【90.9%】で80%以上は達成している。また、教職員質問事項「個々の子どもの頑張りをを見つけ、ほめている」の肯定群は96.4%であることから、今後も引き続き生徒指導の4つの視点を生かした授業づくり、学級経営に取り組んでいく必要がある。	A	生徒の自己肯定感や規範意識に関するアンケート結果は、保護者からの評価も高く、学校と家庭が連携して生徒の成長を支えていることが伺える。今後も発達支持的生徒指導を生かした教育活動を継続し、保護者や地域との連携をさらに深めていくことが大切である。	A	これまで取り組んできた生徒一人ひとりの個性や発達段階を把握し、それぞれに合った指導や支援を行うとともに、失敗を恐れずに挑戦できる雰囲気を作り、成功体験を積み重ねていけるよう組織的に取り組んでいく。生徒が主体的に考え、行動できるような場面を設定し、自尊感情の向上や規範意識の向上を育みたい。	
	③不登校の未然防止、不登校生徒への自立支援の手立ての充実 ・学校評価アンケート「学校の先生たちはよく話を聞いてくれる」肯定群80%以上	質問項目「学校や先生は、あなたたちの意見や希望を聞いてくれますか」の肯定群は、生徒92.5%【87.0】、保護者84.3%【77.2】で昨年度より5%以上上がっている。2学期末不登校生徒(20日以上欠席)は、18人【29人】と減少している。本年度もSC、SSWにつなげたり、個別の支援会を行い、医療機関や森田村塾、保護者と連携しながら対応してきた。今後も未然防止、初期対応、自立支援の手立てを組織的に行っていく。	B	不登校生徒数が減少している背景に、組織的に丁寧な居場所づくりや個別の支援に継続して取り組んでいることが挙げられる。また森田村塾に多くの先生方が生徒の様子を見に行っていることなど、支援が必要な生徒に対して先生方が非常に細やかに対応していることは大いに評価できる。	A	不登校に対する考え方は継続して、学校に登校するという結果を目標にするのではなく、生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目標にすることとしている。今後も不登校生徒への自立支援の手立て、新規不登校を生まない未然防止や初期対応の取組、2者面談や日常での丁寧な関わりを継続して計画的に組織的に取り組んでいく必要がある。	
	④学級活動や生徒会活動の充実による、生徒の自治力の育成 ・学校評価アンケート「生活や学習に関わるルールを自分たちで決定している」「小さいトラブルは自分たちで解決できる」肯定群80%以上	質問項目「あなたのクラスは、生活や学習に関わるルールを自分たちで決定していますか」の肯定群は、生徒91.3%【新】、「あなたのクラスは、問題が起こった時に、みんなで話し合って解決することができますか」の肯定群は、生徒90.0%【85.1】といずれも90%を超えている。引き続き、学級活動の中で、学級の課題解決に向けての話し合い活動を行い、自分たちの学級を自分たちで改善していく活動を充実させるとともに、生徒会活動を通じて生徒の自治力を育成する必要がある。	B	生徒たちは、学級のルールを自分たちで決め、問題解決も話し合いで行う経験を重ね、成長していると考えられる。今後は、学級活動での話し合いをさらに深め、自分たちの学級を自分たちで改善する力を伸ばすとともに、生徒会活動でも自治力を育成できるよう努めてほしい。	B	今後も学級目標やルールを生徒自身が決定する機会を設け、学級で起こった問題については、生徒が主体的に話し合い、解決策を見つける場を学級活動の中で提供していく。また、話し合いの進め方や合意形成の方法についても、若年教員へのOJTが図られる仕組みづくりを進めていく。	
	⑤キャリア教育の充実による、将来の夢や希望をもった生徒の育成 ・学校評価アンケート「目標や夢をもって学校生活を送っている」肯定的群80%以上	質問項目「目標や夢をもって学校生活を送っている」の肯定群は、生徒84.0%【80.4】、保護者88.6%【88.7】で昨年度より上がっている。進路学習や職場体験学習、保育実習等の活動を実施するなかで、将来に対する見通しや希望を持たせることにつながるよう学びをつないできた。今後は効果的にキャリアパスポート等を活用し、夢や希望を持った生徒の育成につなげていきたい。	B	今年度からキャリアパスポートの内容を小中連携の中で見直し実施していることから、15歳の姿を共有し小中で意識して取り組んでいることは評価できる。前年度から生徒・保護者とも肯定群は増加しているが、今後は強肯定(生徒53.6%)を指標として取組を実施することが求められる。	B	教職員の肯定群は82.1%と高いが強肯定では14.3%と大きく下がっていることから、生徒が夢や希望をもって活動できる場面を設定する必要がある。行事や生徒会活動、部活動や授業など個性や特性を生かせるよう意識的に仕組んでいけるよう取り組んでいくようにする。	
	⑥人権教育、道徳教育の推進による人権意識、道徳意識の向上 ・学校評価アンケート「友だちの良いところや頑張り、一人ひとりの違いを認め合っている」「どのような行動が適切かを考えて行動ができる」肯定群80%以上	質問項目「友だちの良いところや頑張り、一人ひとりの違いを認め合っている」の肯定群は、生徒93.8%【新】だが、「あなたは、まわりの人(家族、友達、先生)から認められていると思いますか」の肯定群は87.5%【新】と差がある。また「あなたは、学校生活でどのような行動が適切かを考えて行動することができますか」の肯定群は、生徒94.3%【新】である。学級・学年で人権発表を行ったほか、全校でも弁論大会を実施した。また、親子講演会や生徒会活動でジェンダーについて考える場を設定するなど、生徒がジェンダー等の身近な人権問題を「自分事」として捉えられるよう工夫した。	A	道徳授業の改善、弁論大会、ジェンダー教育など、道徳・人権に関する学習機会が充実している点は高く評価できる。道徳意識調査の結果も良好であり、今後はこれらの取組を継続し、更なる教育の質の向上に努めて欲しい。	A	道徳科の学習を中心に、人権学習についても継続して取り組むことが大切である。様々な立場の人々の考えに触れ、議論し、多面的・多角的な考え方を養えるよう、今後も校内研修や学年会で授業改善に取り組んでいくとともに、ジェンダーの学習も継続して取り、生徒主体で制服の見直し等の議論も行っていく。	
	⑦いじめの予防、早期発見、いじめへの組織的に迅速な対応 ・学校評価アンケート「いじめは絶対に許さない」という強い意志を持っている」肯定的評価95%	質問項目「いじめは絶対に許さないという強い意志を持っている」の肯定群は、生徒96.3%【新】、強肯定80.3%である。各学級で話し合い、いじめなし宣言を全校で発表するなど自分たちで取り組んでいく雰囲気や醸成している。学期ごとの2者面談やアンケート調査から早期発見、早期対応につなげている。また、毎週実施するいじめ防止対策委員会の中で生徒の状況を共有するとともに、対応や対策を協議し全体へ周知している。今後も学校いじめ防止基本方針に乗っ取っていじめの早期発見や日常の生徒理解に努め、適切な情報共有や対応に努めていく。	B	生徒や保護者に寄り添った指導や、保護者との関係づくりについてもしっかりと取り組むことができていくと感じる。今後も継続していじめの早期発見や生徒理解に努めるとともに、保護者への情報発信を続けて欲しい。	A	校内支援会や個別の支援会を通して、生徒理解を深めたり保護者の不安を取り除いたりする取組を継続する。授業中や休み時間にも可能な限り生徒のそばで見守り、生徒が相談しやすい環境をつくり、いじめにつながるような小さな芽を見逃さないようにするとともに、発生した際には組織的な対応で解決を測っていくようにする。	

中期経営目標		短期経営目標(評価項目)	学校関係者評価		改善策等		
			達成状況	評価		考察	評価
確かな学力	目標を見据え、自ら進んで何事も最後までやり抜くことができる。志高く自ら学び、行動することができる生徒を育成する	①授業改善と学力補完の取組の充実による、生徒の学力向上 ・各種学力調査の平均正答率が県レベルに達する	全国学力・学習状況調査では、県レベルに達したが、高知県学力定着状況調査では、県レベルに達していない教科があった。授業改善の取組は大きく進んだが、学力補完の取組の充実についてはまだまだ課題が残っている。学力補完の取組を見直し、授業改善と学力補完の両輪で生徒の学力向上につなげていく必要があると考えている。	B	学力向上の取組は大いに評価できるが、各種学力調査の結果を見ると、まだまだ改善が必要である。授業や家庭学習も含めて、与えられた課題には取り組むが、自分から進んで学習に取り組むという意識の向上が求められる。	B	授業改善のためのPDCAサイクルを中期のプランで計画的に回していく。年度当初にいつ、何を検証するのかしっかりと年間計画を立てて授業改善に取り組んでいく。生徒が自律的に学ぶことができる授業づくりに教科横断的な視点で取り組むことが、授業とリンクさせた家庭学習のしくみを構築することで、学力向上につなげていきたい。
		②1人1台端末をクラウド活用し、生徒が自律的に学ぶ授業づくりの実践 ・教員アンケート「生徒の主体レベル」3以上が80%	教員アンケートの「生徒の主体レベル」3以上の割合は、1学期71%だったが、2学期41.2%と大きく向上した。目標値には達しなかったが、教師の指示で一斉に行う授業スタイルから1人1台端末をクラウド活用して生徒が自律的に学ぶ授業スタイルへと授業改善が大きく進んだ。今後もさらに生徒が自律的に学ぶ授業スタイルへの授業改善を進めていきたい。	B	教員アンケートを見ると、目標値には到達していないが、大きく改善傾向にあり、先生方が授業改善に熱心に取り組んでいることが分かる。授業観が大きく変わり先生方も大変だと思っているが、生徒が自律的に学ぶ授業スタイルの授業づくりにこれからも取り組んでもらいたい。	B	今後も1人1台端末をクラウド活用して生徒が自律的に学ぶ授業スタイルへの授業改善に向けて教科横断的に取り組んでいく。教科主任会で教科横断的な重点取組の検証、改善を行い、教科会で教科としての重点取組の検証、改善を行っていく。
		③重点的に育成したい資質・能力である自律力、プレゼン力の育成 ・授業評価アンケート「課題の解決に向けて、自分から進んで取り組んでいる」資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」強肯定群50%以上	指標である、授業評価アンケート「課題の解決に向けて、自分から進んで取り組んでいる」資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」では、それぞれ強肯定群が12.2%、53.2%と目標値に達した。自律力は育成できていると実感しているが、プレゼン力については十分育成できていないと感じている。生徒が授業の中でプレゼンする機会をつくり、話の組立などを工夫して発表できるような手立てを行っていく必要がある。	B	授業評価アンケートでは目標値に達している。自律力、プレゼン力の育成はできていることが分かるが、プレゼン力の育成についてはまだまだ改善が必要である。授業で身に付けたプレゼン力を発揮する場を設定することと必要だと考えられる。	B	自律力、プレゼン力の育成に向けた授業づくりを今後も継続するとともに、授業の中で生徒がプレゼンする機会を設定する。また、授業で付けたプレゼン力を発揮する場面を、総合的な学習の時間や、学習発表会で発揮できるようにシステム作りを行っていく。
		④1人1台端末を活用した家庭学習の充実 ・生徒アンケート「平日の家庭学習時間1時間以上」80%以上 ・生徒アンケート「計画を立てて学習している」肯定的評価80%	生徒アンケート「平日の家庭学習時間1時間以上」「計画を立てて学習している」肯定的評価が、それぞれ64.9%、67.6%と目標に達しなかった。定期的1人1台端末を活用した家庭学習を取り入れたが、それが生徒の家庭学習の充実十分につながらなかったと感じている。来年度は授業の予習、復習になるように家庭学習の方法を再検討し、家庭学習の充実につなげていきたい。	C	家庭学習の時間が短いことは、大きな課題であると考えている。ただ宿題を出すだけではなく、生徒たちが学びたいような家庭学習にする工夫が必要である。1人1台端末やデジタルドリル、生成AIアプリを活用して、生徒の家庭学習の意欲を引き出ししていきたい。	C	家庭学習の仕組みづくりについては大きな改善が必要である。授業で学びを深めるために進んで予習をする。自分で課題を見つけてそれについて探究していくなど、自ら学びに向かうような家庭学習の例を示した「家庭学習の手引き」を作成し、それをもとに生徒が家庭学習を行うようにする。
		⑤複数教員による教科指導や少人数学習の効果的な活用や、個に応じた支援の充実 ・学校評価アンケート「授業がよくわかる」肯定群85%以上	授業理解に関わる質問項目の肯定群は、生徒83.8%【85.1】保護者49.7%【45.7】教員67.9%【65.5】であった。生徒、保護者、教員で、ばらつきがある。加配教員や学習支援員による個に応じた支援を充実させる必要がある。	B	加配教員や学習支援員が配慮が必要な生徒に個別に声をかけたり、デジタルドリルなどのツールの活用により、個に応じた支援は向上してきていると考える。	B	ITや少人数学習を継続するとともに、授業の中で個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることにより、個々の興味関心に則した学びを提供する必要がある。また、デジタルドリルや生成AIアプリを活用することで、子に応じた支援を充実させていく。
信頼される学校	保護者や地域に開かれた学校づくりに努め、信頼される学校を確立する	①野市中学校から不祥事を出さない ・不祥事防止委員会を立ち上げる。 ・月1回以上、不祥事防止の教員研修を行う。	不祥事防止委員会を立ち上げ月1回実施した。絶対に本校から不祥事を出さないことを合言葉に、年間を通して不祥事防止の研修を計画的に実施することにより、一人一人のコンプライアンス意識が醸成された、不祥事を生じさせない組織風土の構築を図った。研修では服務規律や個人情報の管理の徹底について、不祥事防止及びハラスメントについて等自分事となるよう取り組んだ。	A	不祥事防止委員会を月1回開催し、年間を通して計画的に研修を実施することで、教職員一人ひとりのコンプライアンス意識を高め、不祥事を起こさせない組織風土を構築しているところが評価できる。研修においても、服務規律、個人情報管理、不祥事防止、ハラスメントなどについて、当事者意識を持った研修内容は大きいと評価できる。	A	不祥事防止委員会の定期的な開催は継続し、研修内容を自分事となるよう検討していく。また担当者を輪番にするなど様々な視点から不祥事防止の意識を醸成していく。また意見や批判が自由に報告できる雰囲気となるよう管理職を中心に風通しのよい職場づくりに努めていく。
		②地域学校協働本部の活動の活性化 ・放課後学習支援、環境整備の取組を行う。 ・防災に関して、地域と協働した取組を行う。	放課後学習支援は、12月末現在11名(1年1名、2年6名、3年4名)の参加者で計画通り実施している。支援員の先生方が丁寧に指導してくれている。12月に学校周辺環境整備を人権擁護委員と連携して実施することができた。防災に関しては、12月の避難所開設訓練を地域と連携して行うことができたので、今後はマニュアル見直しも含め教職員や生徒も参加できる取組となるよう努める。	B	放課後学習支援や環境整備など、取組が計画的に実施できている。放課後学習を利用する生徒が多いため、支援員が不足しているように感じる。また防災学習は喫緊の課題であるため早期に取り組む必要がある。	B	協働本部としては地域人材を掘り起こしたり、地域の活動に参加する場面を作ったりして、活動を充実させていく。放課後学習支援員の募集を小学校へ広げ、人材確保に向けて取り組む。防災学習は計画的に実施するとともに、地域や地域人材を巻き込みながら実施できると良い。
		③保護者や地域へ学校の情報の積極的な発信 ・学校評価アンケート「学校は、家庭への連絡・情報提供を積極的にしていると思いますか」肯定群80%	「学校は保護者や地域へ情報提供を積極的にしている」についての質問項目の肯定群は保護者84.3%【81.1】、教員92.9%【97.9】となり、目標値は達成した。「すぐる」を活用して学校通信を周知したり、学級担任が積極的に学級通信を発行するなど、生徒の様子を伝えようと努力している。	B	学級通信や学校通信を定期的に行い、学校の取組を積極的に発信している。今後も情報発信を適宜行い、保護者や地域との信頼関係を深めて欲しい。	B	『すぐる』を活用した保護者との情報共有や情報提供を促進し、学校と家庭の連携を継続して強化していく。同時に、学校ホームページ等を通じて地域社会にも情報発信を行い、地域とのつながりを深めていく。
		④学校評価の実施 学校評価アンケート「学校は、子ども達、保護者、地域の意見を聞いてその声を活かしている」肯定群は、保護者77.9%【73.9】、教職員82.1%【96.6】で差が開いている。学校行事後に保護者にアンケートを実施し、得られた意見を次年度にかかしていく。	質問項目「学校は、子ども達、保護者、地域の意見を聞いてその声を活かしている」の肯定群は、保護者77.9%【73.9】、教職員82.1%【96.6】で差が開いている。学校行事後に保護者にアンケートを実施し、得られた意見を次年度にかかしていく。	B	アンケート結果の肯定的な回答が増加傾向にあることから、学校運営の改善が着実に進んでいると評価できる。	B	生徒、保護者、地域からのフィードバックを学校運営に活かすため、学校評価アンケートの項目を見直し、回答内容に基づいた取組の改善を図り、双方のコミュニケーションとなるよう今後も促進する。
		⑤交通指導、安全教育の充実による、安心・安全な学校づくり ・学校安全計画の周知、見直しを行う。 ・計画的に交通安全教室、避難訓練を行う。	学校安全計画を踏まえ、教職員と共有を図りながら、危機管理に努めてきた。学校危機管理マニュアルも担当者を中心に災害後の教育活動の継続や心のケアについて見直した。自転車の乗り方については、地域の方から注意を受けるなど課題となっている。避難訓練や救急救命講習については予定通り行い、2年生では避難所運営ゲームHUGを体験するなど学習を進めている。	B	学校安全計画を踏まえた危機管理への取組は評価できる一方で、生徒の自転車利用における安全意識や道路交通法遵守の意識の低さが課題となっている。スピード抑制やヘルメット着用などの指導を徹底する必要がある。	B	自転車の安全な乗り方については、交通安全教室の実施や地域・保護者との連携を通じて、継続的な指導を行う。また、総合的な学習の時間に地域住民と協力して防災学習を行うなど、安全教育の充実を図る。

評価基準

A: 十分満足 (80%以上)
C: もう少し努力すべき (60%~40%)

B: おおむね満足 (80%~60%)
D: 大いに努力が必要 (40%以下)